ようこそ！市長室へ 12

「選ばれる可児市へ」

プロサッカーチーム「FC岐阜」に、ラモス瑠偉監督、川口能活選手、三都主アレサンドロ選手というビッグネームが加入し、大きく報道されました。県民の期待も高まっています。入団会見の映像で、彼らの胸に「NGK　NTK　日本特殊陶業」の名が冠されていたことに気付かれたでしょうか？自動車部品製造の世界的企業である日本特殊陶業㈱が岐阜県（可児市）に立地したご縁で、スポンサーになっていただいたということです。

FC岐阜新体制発表会見の様子

同社は4月から、当市の二野工業団地でスパークプラグの部品を製造する新工場を稼働させます。そこには、将来的に数百人の社員が勤務します。工場建物などには約280億円もの資金が投入され、雇用・地域経済の活性化に大きな効果が期待できます。

同社のほか、この3年の間で、KYB㈱、㈱バロー（同社もFC岐阜のスポンサーになってくれました。）、㈱メトーカケフ、オオサキメディカル㈱などの優良企業から立地先に選んでいただきました。企業立地奨励制度の充実や、交通の利便性、安全性、優良な労働力など、可児市進出の優位性を訴え、企業誘致活動を積極的に行ってきた成果です。

日本特殊陶業㈱（㈱日特スパークテック東濃）の新工場

人口、税収ともに右肩上がりの時代は終わりました。一方、高齢化や公共施設の老朽化により、社会保障費や維持管理費が、今後さらに必要となります。安全安心に暮らし、元気に学び、働き、健康で日々を過ごすためには、経済的な活力は欠かせません。

最近、新たな立地企業や拡張した工場に勤める人たちによる、借家契約が増えているという声を耳にします。企業立地や市内企業の頑張りは、市民の働く場所が増えるばかりでなく、新しい市民の増加にも繋がります。市内での消費が増え、スポーツ、文化、ボランティアなど、様々な活動が盛んになれば、税収や雇用の増加だけでなく、まち全体に活気・活力が生まれます。

二野工業団地に進出した㈱神田商会のギター（ZEMAITIS）

企業立地や既存産業の支援などの産業活性化施策は、大切な本市の魅力づくりの一つです。ご高齢の皆さんにも、次代を担う若い世代の皆さんにも、安心して可児市に住んでいただかなければなりません。地域の経済力は、地域の福祉力を支える糧だと思います。

可児市長　冨田成輝